授業科目名	言語学	単位数	2
担当教員名	ミラー・ジェレミ・セイゾウ	担当形態	単独
実務内容 （実務家教員の場合）	外国人に日本語を教える立場、日本人に日本語教育（日本語教授法）を教える立場からの教育経験を踏まえてこの科目を担当している。		

「学位授与の方針」との関係

多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。

授業の到達目標及びテーマ

(1)　言語学の基礎理論を理解する。
(2)　それぞれの理論を生活の中の言葉と結びつけて関係性を見出す。
(3)　言語を客観的に捉えることのできる能力を養い、新しい言語感を築く。
(4)　世界の多様な文化の表層にある様々な言語に関心を持ち、受け入れることができる。

授業の概要

世界には数多くの言語が存在している。言語学の学習を通じて、まず日本語を世界の中の一言語として新たに認識し、俯瞰して見る態度を身に付ける。さらに、普段何気なく使用している日本語を客観的に捉えられるような様々な言語学的なアプローチを探訪して分析を試みる。単に日本語に対する深い理解を得ることに留めず、文化的背景を視野に入れながら他言語との共通点や相違点などを発見していく。最終的には外国人とのコミュニケーションに役立つ言語的視点、言語態度を養う。

＊言語学の概説的な内容を扱い、関連科目として「日本語教育」「日本語学(１)」「日本語学(２)」「日本語学(３)」「日本語教授法」がある。

授業計画

第１回：第１章「言語学の歴史」、「言語の特徴」線状性、記号性、言語の二面性
第２回：第１章「言語の特徴」言語の生産性、「言語の機能」言語能力、談話能力、方略能力
第３回：第２章「音声学」音声学の種類、音声の表記、仕組み、「日本語の音声」子音
第４回：第２章「日本語の音声」母音、50 音図、アクセント、イントネーション
第５回：第３章「音韻論」音素の概念、条件異音と相補分布、日本語の音素の例と見つけ方
第６回：第３章「日本語の音素」音素と異音、自由異音と自由変異、50 音図、母音の無声化
第７回：第４章「形態論」語彙的形態素、文法的形態素、自由形態素、拘束形態素、「語構成の分類」
第８回：第４章「日本語述語の活用」動詞の活用分析、派生接辞、有標理論
第９回：第５章「統語論」樹形図の特徴、「チョムスキーの言語理論」
第１０回：第５章「チョムスキーの文法理論」、チョムスキー理論その後
第１１回：第６章「意味論」語の意味関係、句の意味、文の意味
第１２回：第６章「語用論」コンテクスト、結束性と統合性、発話行為、会話の成立
第１３回：第６章「言語、文化、思考」意味の三角形、言葉と文化、サピア・ウォーフの仮説
第１４回：第７章「認知言語学」スキーマ、カテゴリー化、フレーム、スクリプト
第１５回：第７章「認知作用と言語」フィギュアとグラウンド、「比喩表現」

定期試験
教科書 原沢伊都夫著　2016『日本語教師のための入門言語学―演習と解説―　』　スリーエーネットワーク
参考文献 加藤重広　2019　言語学講義―その起源と未来―　　ちくま新書 黒田龍之助　2004　はじめての言語学　　講談社現代新書 風間喜代三　他　1993　言語学　第２版　　東京大学出版会
学生に対する評価 レポート評価（５０％)、科目修得試験（５０％）を総合して評価する。